



企画：川原 文貴（川原経営グループ代表）

病院の業務において、医療従事者が医療に集中し、自院では専門性や効率を高められない医療以外の業務を外部に委託することが一般的である。法令上の医療関連サービスの他に、近年はサービス提供を行う事業者が多種多様化しており、病院はサービス品質を慎重に見極めた上で、委託事業者を効果的に活用する必要がある。

また、近年では物価高騰や人材不足の影響は病院のみならず、委託業者にも影響を及ぼしており、業種によっては委託業者が病院から撤退する事例も報告されている。自院の医療の質向上のためには、委託業者との安定した関係構築が以前にも増して重要となっている。しかし、適切な委託業者を選定し、長期的な信頼関係を築くことは容易ではない。そこで本特集では、委託業者のサービス品質担保や契約上の注意点を踏まえた上で、具体的な病院での取り組み事例を紹介していただいたので、ぜひ参考にしていきたい。

本特集の論旨が分かる Point 一覧

p.180 医療関連サービスが成立した歴史的な背景と法制上の位置付けを確認し、一般財団法人医療関連サービス振興会が実施しているサービスマーク制度の概要と認定状況、および各業務の委託率の現状を紹介する。また、医療関連サービスの今後の役割や課題についても触れる。
(大道 久)

p.188 近年、医療機関では採用難や働き方改革に伴う業務負担の増加を背景に、アウトソーシングの重要性が一段と高まっている。一方で、委託先職員との価値観共有やサービス品質のばらつきといった課題も顕在化している。聖隷浜松病院では事業者とのパートナーシップを強化し、一体的かつ持続性の高いサービス提供体制の構築を目指している。
(服部 東洋男)

p.194 医療機関の人手不足を背景に、ウェブ完結型の人材紹介サービス利用が急増している。しかし、「成功報酬型だから低リスク」という安易な理解のまま利用規約に同意し、手数料の数十倍もの高額な違約金を請求される事例が後を絶たない。最新の裁判例を踏まえ、利用規約や契約書に潜む危険な条項と、医療機関が講じるべき法的防衛策を具体的に解説する。
(佐藤 浩樹)

p.202 一般的に給食は大量少品目調理を原則とするが、病院給食は少量多品目調理である。そのため、病院給食では多くの人手を必要とし、人手不足、人件費高騰により、物理的・経済的両面で運営が困難な状況である。解決法として食種の集約は必須であり、栄養基準の簡素化は食種の集約に必要な手段である。
(渡辺 正幸)

p.208 病院DXは単なるIT化ではなく、病院が主体性を持ちIT戦略を策定し、ITガバナンスと人材育成を強化することが不可欠である。ベンダー依存を脱却し、信頼できるパートナーとして共創する体制を築くことが、医療の質と安全性を高めるDX成功の鍵である。
(藤川 敏行)

p.216 医師の業務負担軽減を推進している当薬剤部では、薬剤管理指導料算定件数の増加と処方オーダーの代行入力業務の安定継続という課題を抱えていた。そこで事務作業や薬剤部業務を外委託し、薬剤師が臨床業務に専念できる時間を確保した。本稿では、この取り組みがもたらした成果と今後の展望について述べる。
(小牟田 豊)